

平成 17 年 7 月 27 日

各 位

会 社 名 富士電機ホールディングス株式会社
代表者名 取締役社長 沢 邦彦
(コード番号 6504 東証・大証・名証第 1 部・福証)
問合せ先 財務部長 松本 淳一
(TEL . 03 - 5435 - 7232)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 4 月 27 日の決算発表時に公表した平成 18 年 3 月期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）の中間期連結業績予想を下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

1. 平成 18 年 3 月期中間期連結業績予想数値の修正（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	360,000	4,000	5,000	6,000
今 回 修 正 予 想 (B)	368,000	1,000	500	3,000
増 減 額 (B - A)	8,000	5,000	5,500	3,000
増 減 率 (%)	2.2%	-	-	-
(参考)前年同期実績 (平成 17 年 3 月期中間期)	364,240	5,973	7,753	5,210

2. 平成 18 年 3 月期中間期連結業績予想修正の理由

第 1 四半期の連結業績を踏まえ、平成 17 年 4 月 27 日に発表した今中間期の連結業績予想を上記の通り修正することと致しました。

部門別の見通しは以下の通りです。

売上高は、「電機システム」部門では、民間設備投資の増加を背景に、産業・交通システム分野を中心として堅調に推移し、当初計画を上回る見通しです。「機器・制御」および「電子デバイス」部門は、当初計画通りの見通しです。「リテイルシステム」部門は、飲料およびたばこ自動販売機の売上高の増加、新紙幣発行に伴う通貨関連機器の伸長により好調に推移しており、当初計画を大幅に上回る見通しです。

営業損益は、「電機システム」部門では、売上高の増加に加え、プロジェクト管理の徹底による採算性の向上などにより、当初計画に対し改善する見通しです。「機器・制御」部門は、当初計画通りの見通しです。「電子デバイス」部門は、半導体分野が固定費の増加により悪化するものの、ディスク媒体分野が 3.5 インチアルミ媒体の旺盛な需要に支えられて好調に推移するほか、画像デバイス分野も現在進めている中国・深圳への生産移管によるコスト競争力の強化などにより改善し、部門全体では当初計画を上回る見通しです。「リテイルシステム」部門は、自販機・フード機器・通貨機器分野の売上高の大幅増加に加え、コストダウン、生産合理化により当初計画を上回る見通しです。

3.平成18年3月期中間期連結部門別売上高・営業利益予想

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	当初計画	今回予想	増減	当初計画	今回予想	増減
電機システム	1,260	1,310	+50	140	130	+10
機器・制御	830	830	0	30	30	0
電子デバイス	740	740	0	45	55	+10
リテイルシステム	800	860	+60	30	50	+20
その他	240	240	0	5	5	0
消去又は全社	270	300	30	10	0	+10
合計	3,600	3,680	+80	40	10	+50

【注記事項】

上記の業績予想は、市場における当社グループ製品の需給の急激な変動、米ドルを中心とした対円為替相場の変動、日本の株式相場の変動などにより、実際の業績と異なる場合があり得ることをご承知置き願います。

以上